

東久留米の5月の野草No.1



クサスギカズラ科: ワニグチソウ



キク科: ヤブレガサ



ツツジ科: イチヤクソウ



キジカクシ科: ナルコユリ



ハエドクソウ科: ハエドクソウ



(主に林内に生育している野草)

ワニグチソウ: 5月4日開花確認。絶滅危惧種IB類: (何らかの圧迫要因があり絶滅の危機に瀕している種。)

市内の生育地では他の貴重種と同様に減少傾向。

ヤブレガサ: 5月31日開花確認。市内では減少傾向。

イチヤクソウ: 5月17日開花確認。市内の同科は本種のみ生育しており一部の緑地では減少傾向。漢字で「一葉草」と書き薬として利用することがある。

ナルコユリ: 5月17日開花確認。写真の個体は大きく育った花が鈴なり状態。

ハエドクソウ: 5月31日開花確認。和名が「蠅毒草」の意味がありこの植物全体が有毒成分との事。

東久留米の5月の野草No.2



タデ科:ミゾソバ



ハエドクソウ科:ミゾホオズキ

(主に湿潤な場所に生育している野草)

ミゾソバ:5月31日開花確認。一般的には8月下旬頃から10月頃までが開花時期。市内では早咲きの一群があり今頃観察できる。

ミゾホオズキ:5月31日開花確認。通常山野の湧水地や溝などに生育。記録によると近似種で高山植物の「オオバミゾホオズキ」も生育していたとの事。



キキョウ科:ホタルブクロ



ヤマホタルブクロ



キク科:ニガナ

(主に林縁部などに生育している野草)

ホタルブクロ／ヤマホタルブクロ:5月31日開花確認。春先に新芽が出て育ち花茎が伸びた段階ではこの2種の区別は難しい。開花後の萼片の形態を観察する事で判別可能。写真の物は同じ緑地内で混在して生育している。

ニガナ:5月1日開花確認。日当たりのよい林縁部などで群生する。

東久留米の5月の野草No.3



アカバナ科:オオマツヨイグサ



アブラナ科:マメゲンバイナズナ



ツクサ科:ツクサ



ドクダミ科:ドクダミ／ヤエドクダミ



ヒルガオ科:コヒルガオ

(主に空き地や道端などに生育している野草)

オオマツヨイグサ:5月18日開花確認。南北アメリカ原産の帰化植物で減少傾向。

マメゲンバイナズナ:5月8日開花確認。北アメリカ原産帰化植物。

ツクサ:5月31日開花確認。道端などで群生しており花は朝咲きで昼頃しぼむ。

ドクダミ:5月16日開花確認。市内では花が八重のヤエドクダミも観察できる。

コヒルガオ:5月25日開花確認。花柄の萼下付近には縮れたヒレがある。最近ではヒルガオとの交雑種が多くなっている。

東久留米の5月の野草No.4



タデ科:ミチヤナギ



タデ科:イヌタデ



キク科:ハキダメギク



キク科:バラモンギク



(主に空き地や道端などに生育している野草)

ミチヤナギ:5月18日開花確認。あまり見かけなくなっている在来種の一つ。

イヌタデ:5月31日開花確認。植物観察のおり道端などで普通に観察できる在来種の一つ。

ハキダメギク:5月17日開花確認。北米原産の帰化植物。命名は植物学者牧野富太郎氏と言われている。

バラモンギク:5月16日開花確認。ヨーロッパ原産で背丈が1mを超えるなど大型の植物。市内では主に西武池袋線沿いで観察できる。

東久留米の5月の野草No.5



ヤマゴボウ科:ヨウシュヤマゴボウ



ケシ科:タケニグサ



ナス科:ワルナスビ



サトイモ科:カラスビシャク

(主に空き地や道端などに生育している野草)

ヨウシュヤマゴボウ:5月31日開花確認。北アメリカ原産で明治初期に渡来。果実および植物全体が有毒な植物。

タケニグサ:5月31日開花確認。日本では最大級の多年草で中には3m ほどにもなる個体もある。傷をつけると毒性のある乳液が出るので注意。

ワルナスビ:5月31日開花確認。アメリカ原産で世界中に広がっている帰化植物。草刈り時など長い鋭い刺に注意。

カラスビシャク:5月18日開花確認。帰化植物の可能性もあるとか？近年、生育数の変化はないものの花(小型の仏法苞:写真中央部)を咲かせている個体が少ないように感じる。